

(様式1)

自 己 評 価 表

愛媛県立新居浜商業高等学校

学校番号 (8)

教育方針	人間力を高め、将来をたくましく生きる生徒の育成 ～愛ある新商 地域とともに 歩め未来へ!～	重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 分かる授業を展開し、基礎学力の定着を図る。 2 学校行事や部活動に意欲的に取り組ませる。 3 地域に貢献し、地域に愛される生徒を育てる。 4 キャリア教育の充実を図り、実践力を身に付けさせる。 5 ビジネススキルと倫理観を身に付けさせる。 6 創造力豊かなリーダーを育成する。
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	教科指導の充実	教材、教具の活用や個別指導、習熟度別学習、ティーム・ティーチングなど基礎・基本の定着を目指し、常に生徒が興味・関心を持って授業に参加できるよう工夫する。	B	個別指導や習熟度別学習はある一定の範囲できているが、常に生徒が興味・関心を持っているとは限らない。	習熟度別の授業やティームティーチングを更に工夫することで、授業の魅力や理解度を高めたい。 また、家庭学習にも取り組めるように工夫したい。
		適正な評価ができるよう教科会等における教員相互間の連携を密にし、意識統一を図る。	B	週に1度の教科会が実施され、教員相互間の連携はできている。	さらに相互授業参観などを活発に実施し、意識統一を図りたい。
		実社会を見据え、時間厳守・身だしなみ・言葉遣いの指導など、生活指導を行うことにより、職業人に求められる心構えや態度を身に付けさせる。皆勤者140名以上、出席率98%以上を目指す。 皆勤者 A:140名以上 B:139~130名 C:129~120名 D:119~110名 E:110名未満 出席率 A:98%以上 B:97~96% C:95~93% D:92~90% E:90%未満	C	ほとんどの生徒は5分前登校ができている。しかし、皆勤者130名、出席率97%（令和3年12月現在）という結果で、ともに目標は達成できなかった。	生徒指導に関する項目は継続して実施する。更に出席率を高められるように呼びかけをし、継続して粘り強く指導をしていきたい。
		生徒の様子や変化に気を配りながら授業を行い、早期対応を心掛ける。また、お互いを支えあい高めあう学習集団作りに努める。	B	学習意欲に欠ける生徒も多く、集中して取り組めていないことがある。教え合いができている教科や、興味・関心があり自主的な学習活動をしている生徒もいる。	授業や学校行事の中で、生徒個人や生徒間の教え合いなどができる環境作りをする必要がある。
生徒指導	規範意識を高める指導	担任、教科担任、部活動顧問等それぞれの立場、場面で対話・面談を重視した指導を進めるとともに、個人面接の充実を図る。	A	学級、学年、部活動、進路相談等、それぞれの立場で積極的な個別指導、個別面談等を実施することができた。	現在の取り組みを継続していきたい。
		違反や遅刻等に対する段階的な指導を徹底し、学年団を主体とした生徒指導体制を構築する。	A	各学年主任を中心に、それぞれの学年団が意識統一の下、よい指導体制を構築している。	現在の取り組みを継続していきたい。
		伝統の「黙」を正しい姿勢で、厳粛な雰囲気の中で行う。挨拶の励行、服装・頭髪の指導を徹底する。交通マナーアップ運動を全校的に実施する。また、スマートフォン、タブレット端末等のSNS上のトラブル防止とマナーを守った使い方の指導をし、規範意識を高める。	B	身だしなみに対する意識は高くなっているが、SNS上のトラブルが数件発生した。ヘルメット着用等の交通規範意識も今一つ低いように思われる。	交通事故については、引き続き「0」を目指したい。また、情報モラルや法規についてもしっかりと指導をしたい。
	家庭との連携・協力の充実	保護者との連携を密にし、積極的に家庭と連絡をとる。また、欠席が3日以上続いた生徒や、問題や悩みを抱えている生徒に対して家庭訪問を実施するなど、必要に応じて積極的に家庭訪問を行う。	B	本校からの連絡に応じない、電話をしても取らない、掛け直してこない、着信拒否をするなどの保護者が出現してきた。	あきらめず繰り返し対応していくことで、家庭との協力体制を維持していきたい。
教育相談と連携した指導、特別支援教育の視点に立った指導	課題を抱える生徒の早期発見と、必要な支援を行うための校内体制作りと連携を目指し、スクールライフアドバイザー、特別支援コーディネーターとの連絡調整を図る。	A	毎週実施されている学年会で生徒が抱える課題等を早期に発見し、教育相談・保健課を中心とした情報交換がなされ、早期解決ができている。	現在の取り組みを継続していきたい。	

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
特別活動	部活動の充実	各部活動の入部状況を把握し、部活動加入率75%以上を目指す。部活動の活性化を図り、生徒の部活動充実度を高める。 部活動加入率 A:75%以上 B:74~72% C:71~69% D:68~66% E:66%未満	A	目標は達成しているが、休校措置や出席停止扱いなどにより、部活動のモチベーションが以前よりも低下している。	本校にはよい指導者が多くいるので、コロナ禍を抜けると、自然と改善されると考えている。
	生徒会活動の充実	学校行事、生徒会活動等を充実させ、生徒が中心となって運営できるように、リーダーとなれる生徒の育成を目指す。	A	学校行事を運営する6名のリーダーが育っている。	現状を維持しつつ、リーダーの質を向上させられるよう、きめ細かい指導をしていきたい。
進路指導	進学指導の充実	進学希望者全員の進学を実現する。 (進学決定率100%) A:100% B:99~98% C:97~96% D:96~95% E:95%未満	B	進学希望者67名中66名の進路が決定している。(決定率99%)	増加するオンライン入試に対応するための、設備の拡張が必要である。また、一般入試も視野に入れた学力向上の取組と、カリキュラムの検討が必要である。
	就職指導の充実	就職希望者全員の就職を実現する。 (就職内定率100%) A:100% B:99~98% C:97~96% D:96~95% E:95%未満	B	就職希望者77名中76名の内定が決定している。(内定率99%)	オンラインでの受験に対する対策や、それに対応できる生徒の育成に努めていきたい。
キャリア教育	体験学習の充実	地域に貢献し、地域に愛される活動を促す。 インターンシップを通して将来の進路選択に役立てる。	B	インターンシップが中止となったが、自己紹介カード作成を通し、生徒の一人ひとりの学びの場を充実させることができた。また、3月には体験型の校内実習を行う予定である。	新型コロナウイルス感染症対策を含めた実施時期、方法の検討が必要である。 生徒の希望の多い職種に対する協力企業の開拓が必要である。
	資格取得指導の充実	各種検定試験による資格取得を身近な目標として捉え、努力させる。さらに高度な資格取得に向け、挑戦する意欲を育てる。 1年生 検定3級2種目以上 (目標70%以上) A:70%以上 B:69~60% C:59~50% D:49~40% E:40%未満 2年生 検定2級2種目以上 (目標50%以上) A:50%以上 B:49~45% C:44~40% D:39~30% E:30%未満 3年生 検定1級取得者 (目標50%以上) A:50%以上 B:49~45% C:44~40% D:39~30% E:30%未満 3年生 検定1級2種目以上 (目標25名以上) A:25名以上 B:24~20名 C:19~15名 D:14~10名 E:10名未満	B	現在、2年生の目標が達成できていない。 2月6日に行われる今年度最後の検定で、すべての学年が目標を達成できる予定である。 1年生検定3級2種目以上(結果91.5%) 2年生検定2級2種目以上(結果48.0%) 3年生検定1級取得者 (結果75.0%) 3年生検定1級2種目以上(結果26名)	上級の取得ができるよう、習熟度に応じたきめ細かな指導体制を構築していきたい。
業務改善	適切な勤務時間	超過勤務時間の削減を目指し設定した『新商プレミアムフライデー』の一層の定着を図ることで定時退勤を推奨するとともに、年次有給休暇を取得しやすい職場の雰囲気醸成を図る。	B	定期考査期間中や長期休業中など年次有給休暇の所得が増えた。テレワークの推進に努めた。	超過勤務時間の削減に向けて、これまで以上に働き方改革を呼びかけていきたい。
	職場環境の整備	衛生委員会を定期的に開催することで、職場環境改善に関する情報の収集に努め、早期の対応を行えるようにする。また、学校医による定期的な健康相談及び管理職による面談、福利厚生制度についての周知・奨励を行うことで、教職員に寄り添い疲労や負担の軽減を図る。	A	教職員のストレス軽減を図り、心の健康度を高めるためにメンタルヘルス相談の実施や声掛け、対話に努めた。	教職員が健康で安心して働けるように風通しの良い職場の環境づくりに努めていきたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。